

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第78回放送の概要 (2014年3月29日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)
アコ (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
いっちゃん (一ノ瀬悟)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 安心・信頼・確実を会社のモットーとして、給油、洗車、車検、整備など、マイカー、社用車の安全に、資格を持った整備士が目目を光らせております。また車のリース、新車・中古車の販売、生保、クレジット等も取り扱い、車両全てのオーソリティとして、お客様に多大なる信用を得ております。本日は、神戸・明石で十数店舗のガソリンスタンドを展開している、三和油業(株)様、電話078-923-0013の御協力をいただきました。

1. オープニング

今日は、先月放送のゲストの兵庫高校総合科学類型の生徒さんが話された、「高校生鉄人化まつり」が、多くの長田区内の高校が参加し、開催されています。宮城県石巻市の石巻好文館高校と兵庫高校と一緒に、石巻焼そばの販売をしていました。石巻焼そばは、そのまま食べ、後かけソースをかけて2度おいしさが楽しめます。



2. ゲストコーナー：佐伯比呂美さん、雲井律子さん

佐伯比呂美さんは息子さんが自閉症のため、NPO法人@オーティズムを立ち上げ、雲井さんと一緒に理事長として啓発活動をされています。雲井律子さんは兵庫大仏で有名な、能福寺の住職の奥様で、NPO法人@オーティズムの理事をされています。

(1) 能福寺について

能福寺は、805年に天台宗の開祖、最澄さまが中国留学を終え、戻られた時に兵庫の浜に上陸した時、村人が歓迎の意味を込めて休んで頂くために祠を建て、最澄さまがお礼と言うことで薬師如来を自ら彫り、お説法をし、名前をつけてくださったのがこの寺の始まりと伝わっている。

806年に延暦寺が開かれ、2006年に1200年の記念大法要祭が行なわれたが、その1年前の2005年に能福寺の1200年記念大法要が行われた。現住職は26世です。古い資料は神戸大空襲(1945年)で焼失した。

兵庫大仏と言われる初代の大仏は、1891年（明治24年）に建立され、奈良、鎌倉、兵庫は3大大仏と言われていた時期があった。金属類回収令により1944年（昭和19年）に赤たすきをかけて供出した（注：赤たすきは出征するという意味）。本来は鉄砲の弾などになる予定であったが、溶かされた時に終戦を迎え、殺人道具にならなかったのが唯一の慰みである。先々代の祖父は、ばらばらになった銅材を集めることに奔走したが、回収はあまり出来ず、劣化もし、お寺の再興と言う使命もあったので、螺髪（らほつ：仏像の丸まった髪の毛の名称）がお寺に残っている程度である。

初代の大仏が出来た年から丁度100年後の1991年（平成3年）に先代の住職が再建し、大きさは変えずに控えめな大仏さんになった。初代大仏は、お釈迦さまが悟りを開かれた時のイメージで頭が大きく、そのままの再建では防災指定都市の神戸市から許可が下りなかった（震度7に耐えられなかった）ので、平成風のふっくらとした、重心の低いデザインに変更した。



初代大仏



現在の大仏

仏師西村公朝さんは、目線位置で見ると、地上から見上げる場合の大仏様のお顔が違うので、何度もクレーンでつり上げ、こだわって作られた。お寺は1947年（昭和22年）に庫裏が完成した。

先代の住職は、お寺の維持もあり大仏さまを作った時に、拝観料をとったらという提案もあったが、お寺は住宅地の中にあり、散歩、通勤、通学の途中に拜んでいく方が多いので、そのような方から拝観料はとれない、色んな方に手を合わせてもらっての大仏さまである、という考えで拝観無料にしている。

NHK大河ドラマ「平清盛」が決まった頃より、各地のバス会社の運転手から近くに駐車場があるかなどの問い合わせが多く、近くの歴史館への駐車を勧めた。清盛公と能福寺のゆかりは、境内に清盛公墓処の平相国廟がある。これは剃髪儀式を能福寺で行った事、清盛公がなくなった当時住職であった、圓實法眼という方が、御縁で、京都で亡くなられ翌日火葬し、お骨を持ち帰ったと伝えられている。

TVドラマが放映されたために来られた多くのお客さんには、よみがえる兵庫津連絡会の商店主の皆さんと、兵庫県の委託を受けた兵庫ツーリズム協会の企画で、能福寺、真光寺、薬仙寺、和田神社の境内に清盛茶屋を出店し、お接待という方がおもてなしをした。清盛隊は神戸市の企画で、歴史館が出来たまでは能福寺で取材を受けたり、撮影したり、インタビューを受けていた。歴史館完成後はそこで演舞をしていた。全国各地からファンが定期的に訪れる場所になっていた。追っかけの人は、好きな清盛隊のメンバーと同じ衣装を着ていた。昨年末にドラマが終わったので、清盛隊は一度平安時代に戻られ、ファンの要望で復活し、北野工房で定期的に演舞をすると共に、兵庫区の神戸大空襲でも焼け残った岡方会館でファンとのふれあい企画が開催されている。能福寺はまた神戸事件の滝善三郎正信慰霊碑がある事でも有名です。お墓は隣のカネテツさんの工場の敷地にあったが、引っ越したので能福寺で祀られることになった。TV放映期間中は、清盛隊が清盛公のチョットしたエピソードの寸劇を、大仏さんの前の階段を使って立体的に演出したものを披露し、大変好評で、そのテーマソングが毎週境内に響いていた。



清盛公墓 平相国廟



清盛隊

(2) ライト・イット・アップ・ブルーについて

佐伯さんと雲井さんは子供の学校が一緒で、学年は違うが共通の友人を介して知り合いになった。自閉症に関する活動は、2011年にライト・イット・アップ・ブルーのキャンペーン活動が、世界的に行われている事を知り、日本でもお二人を中心に始めようということになった。

今年中学3年生になる佐伯さんの息子さんは、3才前に自閉症の診断を受け、3才から療育的トレーニングを受け始めた。生まれたころから1時間とか30分寝てはすぐに起き、夜となく昼となく起きていた。初めての子供だったので、子供ってこんなに沢山寝起きするものかと思いつつ、ふらふらになって過ごしていた。自閉症とわかってから、息子さんの気持ちも佐伯さんの気持ちも、どんどん変わっていった。自分は育児向きではないのかなと思っていたので、自閉症と診断を受け、その背景がわかってから佐伯さんはほっとした。何か手立てがあるなら一日も早く始めたいと思った。診断した先生は、自閉症の傾向があること、市の保健センターに出向いて相談するように言われた。センターでは何人かの先生に診てもらい、しっかり療育を受けないといけないと診断され、療育センターに行くようになった。

療育は親子で通い、お母さん方はクタクタで、寝不足で、不安と混乱で子供を抱えているので、子供を診てもらおう一方でお母さんもアドバイスを受け、先生が子供に接している様子を見ながら学んでいった。家族も友達も誰も自閉症を知らないで、世界の中で自分だけが孤立し、別の次元にいるような感覚になっていた。しかしセンターに行くと理解してくれる人がいるので、それだけでかなり楽になった。

自閉症は、世界共通語のオーティズムと言ってメジャーな障害である。オーティズムが日本に伝わった当時、精神的疾患を患った時に自ら閉じこもる症状（自閉症）とよく似ていることから、「自閉症」と翻訳されたが、オーティズムは自ら閉ざす障害ではない。このため佐伯さん達のNPOは、オーティズムと言っている。自閉症という誤解を生む事が多く、心の病ですか、自らを閉ざして他人と関わりたくないと思っているから声をかけられない、と思われてしまうといった誤解を生んでいる。生まれ持った脳機能の障害ではなく、後から起きる何かでそうなったと考える人が多い。親の育て方でそうなったとするなら、親の責任であるから他人は手出しが出来ないと考えられてしまう。しかし持って生まれた機能の問題と考えると、周りから支援の手を差し伸べやすい。ホームページでは「しょうがい」と書いているのは、発達障害の害は「がい」ではないという意味である。障害ではなく特徴と考えている。社会の受け入れ、環境があれば、人の気持ちが整って来れば、障害ではなくなる。特徴が強いか弱いかという問題になる。自閉症ではなく、オーティズムという言葉が重要な意味を持つてくる。

ライト・イット・アップ・ブルーはニューヨークから発信された。日本は社会の理解が20年遅れているので、一般の人がどれだけ知っているか、学校、病院の人々がその子の特徴をどれだけ知っているかが遅れている。ライト・イット・アップ・ブルーという名前を使うのは、グローバルスタンダードで先進国では当たり前前の状態に持っていきたいからである。

息子さんは、今は2歳の頃から見ると信じられないほど成長した。小さい時は呼びかけにも振り向かず、佐伯さんの声に反応せず、喜ばせようとする事に反応がなかった。自分一人の中で完結し、何が欲しいかわからず、言葉が出ず、声を聞く事が殆どなかった。笑い声もギャッと行って手をヒラヒラするだけであった。声が出ない子と思ったこともあった。佐伯さんが最も気をつけた事は、親からのアプローチには何も反応しないので、何に興味を持ち、何に反応するかを探した。息子さんを抱っこし、ジャンプしたり、プールに入れたり、ブランコに乗せたりする中で笑った事があった。それは背中におんぶして走った時、背中で笑っていた。それを先生が見ていて笑っていたよと言ってくれた。そのような刺激を快と感じたようである。佐伯さんのことを、お母さんと言う事が分らず、面白い乗り物程度に思っていたと思われる。何度か繰り返すうちに、乗り物に興味を持ちだし、佐伯さんを優しくしてくれる人だと認識し、佐伯さんの事を好きになってきた。母と子の繋がりは、社会に出て行く上で土台になる非常に重要な第一歩で、そこがうまくいかないと次のステップに進めない。佐伯さんを意識出来るようになってからは、息子さんと佐伯さんのやり取りが出来るようになってきた(4~5歳頃)。6歳の頃でも情緒年齢はゼロ才で、そこからスタートであった。楽しい事だけを沢山経験させるようにした。6歳から目覚ましい成長を始めたが、脳の神経は生まれてからずっと伸びており、伸びた神経が違った方にも伸びているかも知れないが、自分でも工夫して生活に順応出来るようにしてきた結果が今であると考えている。先週より今週、去年より今年は飛躍的に変わってきている。自分の思っている事が伝わる喜びを感じていると思う。

NPOを立ち上げて、困っている親子に対するアドバイスは、自分の経験、読んだ本の中から答えることしか出来ない。家庭環境、症状は様々であり一概には言えないが、親子が育って行く上で必要なエッセンスはあると思う。お互いがお互いを幸せだと思え、その瞬間を思えるようにしていくのが一番いいと思う。それには子供が何を必要としているか、どうしたいと思っているかを察知してあげることが一番と思う。お母さんはわかってくれる、この人は信頼できる、信頼できる人が増えれば増える程豊かになっていく。佐伯さんの息子さんは、重度の知的障害であったので熱いケアを受けた。ある程度のこと出来る子供は、実践的に世の中に順応出来るノウハウを教える必要がある。一つずつ教えた事しかわかっていないと思ってほしい。常識だから知っていると思うと親もしんどくなる。なんでこんな事が出来ないのと思ってしまう。しかし教えていないと出来ない。この子が出来ないのは周りの大人が教えていないから、教えたが伝わっていないからと思ってほしい。

日本でのライト・イット・アップ・ブルーの活動は、2011年に佐伯さん、雲井さんと、二人の友人が何か出来る事があればという話の中で、佐伯さんが記事を見つけ、これなら自分達でも出来ると考え、神戸、芦屋でライトアップ出来そうな施設を探し、アタックし、理解の得られた施設から始めた。その年は東日本大震災が発生し、楽しいイベントをこの時期にするのはどうかと考え一度はあきらめた。ニュースを見ていると、障害を持っているがゆえに、避難所に入れず、車中で生活したり、トラブルを起こしたりという報道があり、やろうとしている事は全国に発信していかなければならないと思い、当時神戸港は追悼の意味で消灯していたが、趣旨を理解してくれた、神戸ポートタワー、メリケンパークオリエンタルホテル、兵庫大仏の3か所で4月1日だけは点灯した。ニューヨークから、ライト・イット・アップ・ブルーは、4月2日に変更するという連絡があり、今年は4回目になるが4月2日に点灯する。能福寺では、6時半受付開始、7時から8時過ぎまで点灯式を行う。HPには各施設の点灯時間、点灯期間が掲載されています。

今年の神戸のライトアップの場所は、神戸ポートタワー、能福寺、明石海峡大橋、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、ホテルオークラ神戸、神戸ハーバーランドUMIEモザイク大観覧車、しあわせの村、ファンタジー号、楠木正成公像、錨山、フラワーロード光のミュージアム、明石市立天文学館、トリコロール神戸、芦屋では、三田谷教育治療院、芦屋市役所です。

佐伯さんは、「ぷちスピチュアルな母と息子とオーティズム」という本を出版されています。この本には、「自閉症と診断された息子」さんと、その「母親」の約12年間の出来事、対処方法、独特の治

療方法やアプローチ、またオーティズムを取り巻く環境の課題などが書かれています。

オーティズム（自閉症）は、周りの理解が非常に大事です。そのための啓発活動として「ライト・イット・アップ・ブルー」が神戸から始まり、全国に広がっています。神戸は阪神大震災があり、助けあい、心のケアの重要性に気付きました。佐伯さんの息子さんは、今はライト・イット・アップ・ブルーの計画に大きく貢献しています。全国のタワー、幕末の志士のライトアップをしたいといったことを、最初に言い出したとても頼りになる存在です。

（参考：HPより）

◆ライト・イット・アップ・ブルー (LIUB) は世界中で行われているオーティズム啓発キャンペーンです。世界自閉症啓発デーの4月2日には各国でブルーライトを灯したりブルーを身にまとうことなどで応援のメッセージを発信します。

◆NPO 法人あっとオーティズムが取り組んでいること、、、
オーティズムを皆さんに知っていただくために、2011年より Autism Speaks (NY) と連携し日本での LIUB キャンペーン普及のため活動しています。あっとオーティズムは LIUB Japan 実行委員会を設け各地の関係団体とつながってサポートの輪を広げています。
オーティズムのお子さんを持ち不安を感じているお母さんのために、オーティズムの子どもを育ててきた先輩ママが話を聞いたり、情報の提供をしています。

NPO 法人あっとオーティズム

ホームページ：<http://happy-autism.com>

メール：world.happy.mamas@gmail.com

3. ミュージック：ライト・イット・アップ・ブルー

ニューヨークの13歳のオーエン・サンダースさんが、クラスメートのオーティズムの生徒さんのために作詞、作曲したもので、クラスメートと一緒に歌っています。

Light It Up Blue ♪ （歌詞：英語版のほぼ直訳）

光がボクを照らす、ボクがキミを照らすよ。

さあ一緒に世界を青く照らそうよ！

ボクたちは一緒、のりでくっついたみたいに離れないさ。

光がボクを照らす。ボクはキミを照らすよ。

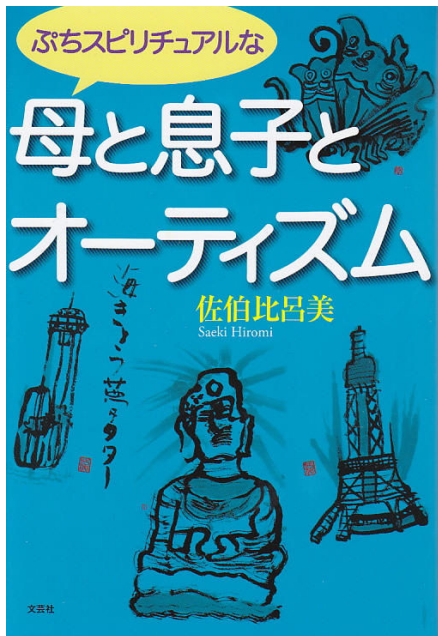
Light It Up Blue, Light It Up Blue, Light It Up Blue, Light It Up Blue.

海も輝いてオーシャンを駆けるよ。ほら、空の星たちも特別な色をそそいでくれる。

さあ、手をつないで。ボクたちにできること、見てごらん！

その光を照らすのをみんな手伝って。一緒に世界中をブルーにしよう！

Light It Up Blue x 4



佐伯比呂美さん著作本



キャンペーンビラ



2013年東京タワー点灯後の総理官邸



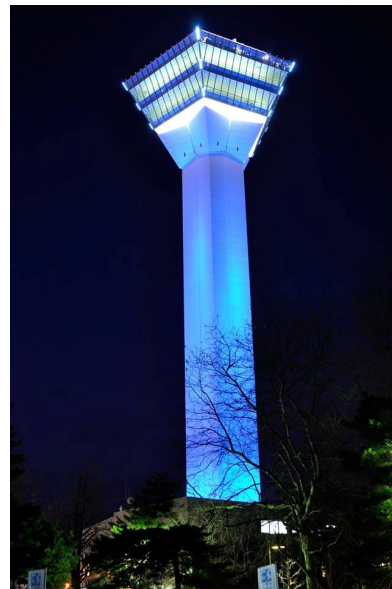
能福寺



LIUB Japan 集合写真(楠木正成公像)



モザイク大観覧車



五稜郭タワー



明石海峡大橋



世界遺産・五箇山菅沼集落

4. 地域瓦版

王子動物園では夜桜の通り抜けが4月3日～5日まで、18時～20時半まで、無料です。須磨妙法寺川桜まつりが4月5日に妙法寺川公園で、12時～16時まで開催されます。ベトナム民族歌舞団公演が4月9日にピフレホールで18時半から開催、一般2000円（当日2300円）、小中高生1000円（当日1300円）です。

5. 来週のゲスト

兵庫県神戸県民局の岩原直子さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>